

肢体不自由児の障害特性を踏まえたICTを活用した指導方法や教材・教具の工夫 No.11

「スマートスピーカーを活用した話題の広がり」
～朝の会における「今日の天気」発表を通して～

事例生徒の実態	特別支援学校高等部 1年生 ・ 日常的事や身近な出来事についての会話ができる。 ・ 発表等になると言葉が出づらかったり、声量が小さくなったりする。 ・ 手指の筋緊張が強いため、操作時の力加減や微細な動きに困難がある。
教科(単元名)領域	自立活動
指導目標	必要な情報を自ら得て、発表したり、会話をしたりする。
使用した機器	ディスプレイ付きスマートスピーカー (Amazon Echo Show 8)
本単元で育てたい具体的な力	・ スマートスピーカーを活用し、自ら必要な情報を得る。 ・ 係の仕事を毎日繰り返し行って、人前での発表に慣れる。 ・ 「今日の天気」を声の大きさや速さに気をつけて発表する。

指導のポイント

本人が操作しやすいスマートスピーカーを活用し、必要な情報を得ること、また、集団場面における発表において、繰り返し行うことで自信を持って伝えられることを目指した。

ICT を活用した実践

○授業内容

- 1 スマートスピーカーの使い方を覚える
- 2 スマートスピーカーで天気予報を聞き取る
- 3 朝の会で発表する

○活動の流れ

1 スマートスピーカーの使い方を覚える

- ① 毎朝の天気予報確認に使用するスマートスピーカーは教室の入り口付近に設置し、いつでも自ら話し掛けられるようにした。
- ② 教員が呼び掛け方の手本を示し、その後本人が呼び掛けるようにした。

はじめはスマートスピーカーに3回程度呼び掛け直す様子がみられた。



本人が見たいと思った画像をインターネット検索するように言葉掛けをしたり、音楽の再生を依頼したりすることで機器操作に慣れるようにした。



- ・ 2週間程度で機器への呼び掛けに慣れ、1回の呼び掛けで反応するようになった。
- ・ 呼び掛け後、画面下に青いライトが点灯するのを待ってから話し掛ける必要があることに自ら気づき、「間を取って話す」という姿もみられるようになった。



図1 スマートスピーカー画面

ICT を活用した実践（続き：活動の流れ）

2 スマートスピーカーで天気予報を聞き取る

【ディスプレイ付きスマートスピーカーの利点】
視覚及び聴覚両方から情報入力が可能となる

- ・聞き取れていない時は、繰り返しスマートスピーカーに確認する様子が見られた。
- ・日常会話において、朝ご飯、給食といった食事に関する話題が多かったが、自分がスマートスピーカーを使って知った情報について話すようになり、話題が広がった。

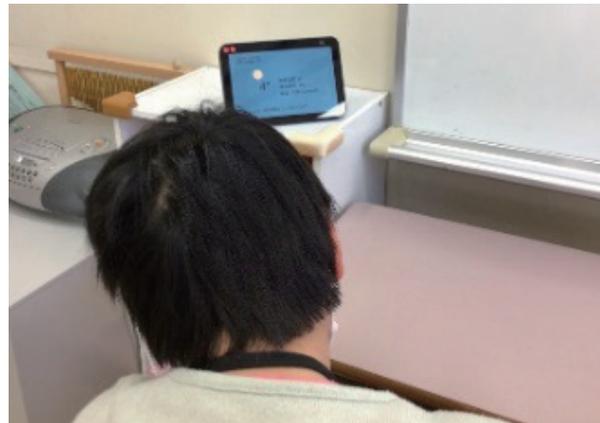


図2 スマートスピーカーで天気を調べている様子

3 朝の会で発表する

はじめは言葉がつまる、声量が小さくなる、話が途切れる、話が終わると沈黙する等の場面があった。

支援ポイント：

- ・話が終わるまで静かに見守り、天気的话题を教師が広げた。
- ・話が途切れてから10秒経過しても次の言葉が出ないときは「発表は終わりですか。」と言葉掛けをした。

- ・表情が柔らかくなり、話題が広がると笑顔になることもあった。
- ・発表場面になると、「今日の天気は…」と問をあげずに話し始めることが増え、声量も大きくなっていった。
- ・話し終わると、「以上です。」と自ら発言することがあり、頻度が増加した。
- ・慣れてくると、最高気温、最低気温等の天気以外のことも加えて話すようになった。

生徒の変容

- ・スマートスピーカーの活用について、自分の興味あるものを調べられないか、様々な呼び掛けを行ったり、機能を探ったり、試行錯誤する姿がみられるようになった。
- ・学校における余暇の時間では、機能を活用して写真を検索したり、クイズをしたりするようになった。
- ・以前はうつむきがちで発言が聞き取りにくいことも多かったが、顔を上げて、明るく、自信のある表情が多く見られるようになった。

本事例から学ぶICT活用のポイント

- ・本人が操作しやすい機器（スマートスピーカー）を活用することにより、意欲を引き出すことができる。
- ・活動を繰り返し行うことで自信を持って話せるようになり、伝えたいことをスマートスピーカーで調べ、話題の広がりにつなげることができる。

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 肢体不自由教育研究班

本事例は、令和4年度「肢体不自由教育研究班」基礎的研究活動に基づいて作成されたものです。

事例提供者：向田 昌樹（神奈川県立あおば特別支援学校）

※事例は前任校（神奈川県立相模原中央支援学校）での実践に基づくものです。